

「1997年8月1日から2013年12月31日までに川崎医科大学附属病院放射線科(治療)を受診し、外照射併用高線量率組織内照射(HDR-BT)を施行された前立腺癌の患者さんへのお知らせ」

「前立腺癌に対する外照射を併用した高線量率組織内照射療法の多施設共同遡及的観察研究」について

当教室では、1997年8月1日から2013年12月31日までに川崎医科大学附属病院放射線科(治療)で外照射併用高線量率組織内照射にて治療を受けられた前立腺癌患者さんについて、その治療成績に関して日本放射線腫瘍学会小線源治療部会を主体とする多施設共同研究に参加して研究を実施することとし、倫理委員会より結果公表の承認を得ました。

現在、限局性前立腺癌に対して広く施行されている治療法は、外科治療・放射線療法・内分泌療法・待機療法の4つであり、今日では限局性前立腺癌に対する標準的な治療法として前立腺全摘除術と放射線療法は並列して呈示され、広く普及しています。さらに近年の放射線療法の進歩は著しく、従来の外照射療法に加えて、強度変調放射線療法(IMRT)、密封小線源治療永久挿入治療法(LDR-BT)、高線量率組織内照射療法(HDR-BT)、粒子線治療といった新たな治療法の登場によって、選択の幅が今なお広がりつつあります。この中で、当教室では川崎医科大学泌尿器科学教室の協力の下、1997年より限局性前立腺癌に対する治療法として高線量率組織内照射と外照射の併用療法を提供しており、その症例数は現在までに1000例を超えています。

本研究の目的は、本邦における限局性前立腺癌に対する標準治療法として、高線量率組織内照射と外照射併用療法の適応を明らかにし、その長期成績について検討を加え、今後の臨床に役立てることにあります。本研究は川崎医科大学倫理委員会の承認を得て実施され、その結果は学会演題や学術論文として発表される予定です。研究期間は2016年3月14日から2017年12月31日の予定です。

本研究は、カルテからのデータのみを収集する観察研究であり、患者さんの個人情報にわたらない状態で解析します。従って、患者さんの個人情報に外部に漏れる心配は全くありません。しかし、本研究の対象となる患者さんは、ご自身に関するデータの発表の機会を拒否することができます。データ発表の拒否を希望される患者さんは、お手数ですが下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。また、本研究で得られたデータについては、倫理委員会の審査を経て承認された場合に限り、二次利用することがあります。

なお研究を行うために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生したり、判断にひずみが起こったりしかねない状態を利益相反状態といいますが、本研究では研究資金は要さず、研究結果に影響を及ぼすような経済的な利益関係はないため、深刻な利益相反状態にはなっていません。

この他にも何かご不明な点がありましたら、いつでもご遠慮なく下記の問い合わせ先までご連絡ください。

本研究についてのお問い合わせ

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577

川崎医科大学 放射線医学(治療) 臨床助教

小西 圭

Tel 086-462-1111(代) FAX 086-464-1199